



日本キリスト教保育所同盟 (題字 前理事長・木村 量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館 〒762-0056 香川県坂出市中央町8番58号
発行責任者 理事長 新井 純

「傷つきやすさの中に」

日本基督教団 扇町教会

牧師 山田 真理

クリスマスが近づいてきました。クリスマスを待つことから教会の新しい1年が始まります。教会暦では、クリスマスを待つアドベントから新年が始まります。人生において「待つ」ことがどれほど重要であるか、待たなければ生み出せない命の意味があることを告げるのがアドベントだと言えるでしょう。今年12月2日で古い1年が終わり、12月3日からアドベントに入り新年が始まります。

クリスマスは、世界と、世界に生きる全ての命を創られた神が、我が子イエスを私たち全ての人間のために贈り物としてくださった出来事を感謝する日のことです。世界で初めてのクリスマスは、約2000年前、西アジアのパレスチナで祝われました。マリアとヨセフの子として家畜小屋の飼い葉桶でイエスは誕生しました。未婚のまま妊娠したのが少女マリアでした。妊娠した子はヨセフと血のつながりのない子でしたが、彼は一度下した決断を覆し、生まれくる子の父となる決意を固めたわけです。常識外の状況における出産ですから、旅先でマリアが出産を迎えた時、マリアとヨセフを家の中に迎え入れてくれる人はおらず、家の外でイエスは誕生したと、聖書は伝えています。そしてこの出来事を初めに知らされたのは羊飼いだっ

と。羊を飼う仕事は、人々が忌み嫌った職業でした。野宿し、夜も羊を守る仕事でしたから、きつい大変な仕事でした。ユダヤ教の安息日を守ること、神殿で祈り、ささげものをするのもかなわなかった。そのため人々は羊飼いを罪人呼ばわりし蔑視していました。いつの時代も、人間は他者の存在を軽視することによって自らを重んじようとし、社会において、誰かを無き者にすることによって安心を得ようとし、神がイエスの誕生を初めに知らせたのが羊飼いであったことは、神が社会から締め出された者に目を向けておられること、

そして他者否定によってしか自己存在を肯定できない者にもまなざしを注いでおられることを示しています。

世界で初めてのクリスマスは、マリアとヨセフによって、駆けつけた羊飼いたちによって祝われました。2度目のクリスマスも、3度目のクリスマスも、不安定さの中にあり傷つきやすさを抱える人が、イエスの誕生は誰のためなのか、何のための出来事であるのかを知らしめられ、その発信者となったことでしょう。傷ついた人生であったからこそ、他者のために傷つき痛みを感じることができる人がいます。他者のために傷つくことのできる人は無条件に立ち止まり、飼い葉桶の乳飲み子に目を向け、人間のために傷つく神の心に出会うのです。人間のためにどこまでも傷を受けられる神の心に出会うのです。

階段を上るために他者を押しつけて生きる者、傷つくことを回避して生きる者は、表立って言われない訳ありの、汚らわしい出生だと見下し、イエスの誕生から目を逸らしてしまうでしょう。常識の枠にはまらない命の誕生を、私たちはなかなか受け入れられません。常識に固執し、不幸や悲惨さの中で誕生した命を罵ってしまう。そうやって自分を平均的なところに置き続けろうとしている。そして、母親を責め苛み、癒しがたい傷を負わせているのです。

クリスマスは母親が涙を拭かれるためにあります。クリスマスはこの世界に誕生した全ての命が、子どもたちが、人々の視点、世の視点から解放され、神のまなざしによって生きるためにあります。クリスマスは神の心と出会う日です。人間が否定する不安定さ、傷つきやすさの中に、神が我が子を送り誕生させた日。神の心は私たちの弱みのあるところ、傷つきやすさといつも共にあることを、迎えますクリスマス、子どもたち、母親たち、出会う一人ひとりと分かち合ひましょう。



佐原良子

森の動物たちは今日もお友だちと遊びたくて、広場にやってきました。
広場にある池のまわりには、4軒のおうちがたっています。

ブタさんのおうちの隣はタヌキくんのおうち、その隣はキツネくんのおうち、その隣はネコさんのおうち、そして、その隣が最初のブタさんのおうちです。

ブタさんは隣のタヌキくに「タヌキくんはいいなあ。たたけば、ポンポコポンと鳴るおなかの太鼓があって」と言いました。どうやらブタさんはお月見の夜、おなかの太鼓をたたきながら、お月様の下でポンポコポンと踊るタヌキくんが羨ましかったようです。

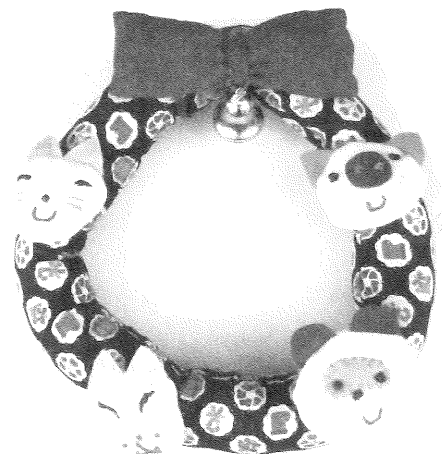
タヌキくんはキツネくに、「キツネくんはいいね。緑の草の上を速いスピードで走りまわる足があって」と言いました。

でも、キツネくんはネコさんのことが羨ましかったのです。ネコさんに、「ネコさんは、高いところからぴょんと飛び上がったり、高いところからぴょんと飛び降りるのが格好いいね。フーと息を吐きながら、勇ましく立ち上がって、爪を立てると強そうに見えるね」と言いました。

ネコさんもブタさんに言いました。「ブタさんは鼻歌を歌ったり、立派な鼻でにおいをかいでおいしい食べ物を見つけたり、食べたりするのが得意だね」動物たちは、他の動物が羨ましくてたまりません。

そんなとき、池のそばでキャンプをするためにやって来た町の子どもたちがいました。子どもたちは魚つりをしたり、池に小石を投げ入れてどこまで飛ぶかを競争したり、車椅子のお友達も一緒に助け合って水くみをしたり、火の番をして食事を作っています。

キャンプ中の子どもたちが仲良く楽しんでいる様子を、森の動物たちは木の陰からそーっと見ていました。動物たちに





気づいた町の子どもたちは、「一緒にキャンプファイアーをしよう」と誘ってくれました。その楽しかったこと！朝は一緒に体操もかけっこもしました。

キャンプのみんなが帰った後、動物たちは隣の動物を羨ましがってばかりいた心が恥ずかしくなって、仲のよい友達になりたいと考え始めました。4匹の動物はもうすぐクリスマスだということに気づいて、「村中で楽しいクリスマス会をしよう」と計画しました。「クリスマス会に来て下さい」という案内のピラを作って配ります。ブタさんは「ブー、ブー、ブー、ブー」と伴奏を鳴らして、タヌキさんは体を振ってポンポコ腹鼓。キ

ツネが一軒一軒のおうちのポストの前に立つと、背中にネコが乗って、ポストへポーンと案内のピラを入れていきます。

クリスマス会には、案内のピラを見た村中の動物たちが集まってきました。町内ごとの歌やコントや、鍋の蓋やバケツ等を持ち寄っての合奏などもあり、みんなで楽しくすごしました。美味しいジュースや焼き芋のおやつも出てきましたよ。

最後には、「こぶた、たぬき、きつね、ねこ♪」と『♪こぶたぬきつねこ』を4匹が歌い始めると、みんなの大合唱が起こり、知らない間にみんなが手をつないでいたのです。クリスマスの曲をたくさん歌ったステキなクリスマス会になりました。

空を見上げると、宝石を散りばめたような星が輝いていました。その輝きをじっと見つめていると、イエス様のうまれたクリスマスの日が想像できて、みんなのところにイエス様をおくってくださった神様の愛が注がれているのがわかりました。



動物たちみんなの心には、温かい気持ちが湧いてくるのです。



クリスマス献金のお願い

年中行事のようであり、里帰りのようである、バングラデシュ訪問を今年も果たすことが出来ました。昨年帰国後すぐに、テロ事件が起こり、次回の訪問はいつになるかなと思っていましたが、協力先のNGO（非政府組織）「ワールドコンサーンバングラデシュ」から、訪問を促すメールを受け取りました。

警備には万全を尽くすというメッセージに心動かされ、6月12日から19日までの予定で、今年も向かいました。ダッカ空港を出るまでは、テロ防止などの警備が強化されているのを感じましたが、一歩空港を出ると、いつものバングラデシュであり、ダッカでありました。

多くの車が車線関係なしで走り、我先にと進路を確保していく凄まじい光景は変わりませんでした。ダッカの町ではイスラム教のラマダン月ということもあり出来るだけ目立たないように行動し、地方の田舎町では、大歓迎を受けました。ヤシの実ジュースは大きすぎて飲みきれませんでした。雨季の始まりの頃ですが、マンゴーは豊富でいつでも山盛り出され、少し閉口してしまいました。

今回も、就学前の子ども達のための施設「プレスクール」を数多く訪問し、子ども達はもちろん、先生たちとも交流しました。

先生方は本当に若くて、12歳から20歳の方たちでした。特に何かの資格や免許が必要ということではありません。少しの研修を受ければ、すぐに現場に立つようです。まだ幼さの残る顔立ちには、責任感と自立心が感じ取れました。

彼女たちの境遇は、一様に厳しいものでした。父親を病気で亡くし、家族の支えとなっている少女。両親とも次々と亡くし親戚に身を置く少女。皆がひとり親の、あるいは両親ともおられないという境遇でありました。



これは支援先の配慮でもあるようです。このような境遇の少女たちに、プレスクールの先生という仕事を与え、少しでも経済的な援助を行おうとしているのです。

我々に託されている保護者の皆さんを始め、多くの方々から寄せられている日本キリスト教保育所同盟のクリスマス献金は、ここでの彼女たちの支援にも役立てられています。

彼女たちと懇談をしました。将来の希望は学校の先生を目指している方が多かったですが、中にはジャーナリストになりたい方、

医師を目指す方もいました。彼女達とその夢に近づくためにも、経済的な継続したさらなる支援が必要となってきます。

バングラデシュはイスラムの国です。イスラム教は女性に対して厳しい戒律があり、自由な職業選択はもとより、外出さえも自由にできない人がいます。そんな中で彼女たちは懸命に生きています。活動中の緊張した厳しい顔が、懇談では笑顔が見られ、支援に対しての感謝と今後の期待が話されました。

もうすぐクリスマスです。バングラデシュの子ども達のことを覚えていただき献金をよろしくお願ひいたします。

「クリスマス献金のお願い」

バングラデシュの子どもたちのために
福島の子どもたちのために
「災害支援金基金」のために
日本キリスト教保育所同盟の働きのため